

研究開発課題説明資料（事前評価）

1. 課題名（期間）

建築性能評価技術等の充実に関する研究（平成16～18年度）

2. 主担当者（所属グループ）

岡田恒（構造）坊垣和明（環境・防火）伊藤弘（材料・生産）斉藤憲晃（住都）榎府龍雄

3. 背景及び目的・必要性

平成10年の建築基準法改正により、建築基準の性能規定化が導入され、法的枠組みが大きく変更された。これにより一定の性能に基づく各種の技術的方法に資する技術的設計法について定めてきたところである。

また、平成15年からは建築基準法、住宅品質確保法の技術的基準の継続的見直しの推進体制が整備され、当研究所は基準化支援部門としての役割を果たすこととなった。

このため、建築研究所において、これらの状況に即して、国土技術政策総合研究所と連携しつつ、組織的に、社会から導入の要請のある新技術に対応した技術的設計法の策定を行うほか、ストック活用等新しいニーズに対応した建築性能評価技術等の整備やその体系について検討するものとする。

4. 研究開発の概要・範囲

新技術に対応した設計法及びストック活用等に係る建築性能評価技術の整備

建築基準法、住宅品質確保法の技術基準の継続的な見直しにも対応しつつ、新技術を社会に導入するための必要な技術的設計法の策定を行うとともに、ストック活用等新しいニーズに対応した建築性能評価技術等について整備を行う。

今後の建築性能評価技術体系のあり方の検討

我が国及び海外の建築性能評価技術等の実態を踏まえつつ、技術的問題点等を整理した上で、今後の建築性能評価技術体系のあり方についての検討を行う。

5. 達成すべき目標

必要な技術的設計法等の策定及び建築性能評価技術のあり方を提案する。